

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果まとめ

令和7年4月17日（木）に行われた「全国学力・学習状況調査」では、全国の小学6年生を対象に、「国語」「算数」「理科」の学習状況と児童の学校や家庭での生活実態についての調査が実施されました。本校の国語は全国平均を大きく上回り、理科についても上回っています。算数は全国平均とほぼ同じ結果となっています。調査については、児童の学力の一部分ではありますが、結果を基に本校の現状と課題を分析してまとめましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせいたします。

学力調査 課題に対するまとめ

【国語科】

◎ 全国平均を大きく上回っており、ほぼ全領域にわたって問題正答率が平均を上回っていた。

1つ目の特徴として、**記述式問題**「条件を踏まえ、60文字以上100文字以内でまとめる」での正答率がかなり高かったことがあげられる。提示されている文から、自分で「必要となる言葉」を抜き出し、「伝わるように書き表し方を工夫して」記述する問題である。文章を綴っていく課題に粘り強く取り組める力があるからこそ、そして必要な「言葉」を用いながら、条件に合わせて全体を見通して文を作っていく力をつけていることがわかる。

授業での端末活用率が市内随一の本校において、国語の授業の中でも、端末を使って「自分の考えをまとめ、表現する」活動を頻繁に行ってきたのが、現6年生である。書く、整理する、みんなで共有する、まとめるが繰り返される学習の中で、この成果があらわれているのではないかと分析する。

また、7人という少人数のなかでは、授業において「誰かが発表してくれる」と人任せにすることができない。必然的に自分で考える、書く、伝える、が求められ、それらなしに授業は進んでいかない。常に能動的な学習姿勢で取り組まざるを得ず、それが、児童の力につながっていると分析できる。

2つ目は、**漢字の設問**における正答率も大きく平均点を上回っていたことがあげられる。基礎基本となる漢字の積み上げがしっかりできていることがわかる。地道な努力ができていること、日々の学習習慣が定着している児童が多いことが伺える。

一方で、「読書が好きか」という設問では、86%がそう思うと答えているが、一日あたりの読書時間は「10分以上～30分より少ない」が43%と一番多く、「新聞を読んでいるか」では、ほとんど読んでいないことがわかった。

今後さらに、読書活動を親しむために、今年度から始めた教師による「おすすめ図書」の紹介をするなど、「すきま読書」の時間を活用しながら、教科書の説明文や新聞の論説文などのプロの優れた文章に触れる機会をもち、インプットもさせていきたい。



【算数科】

◎ 学習指導要領の内容の「知識及び技能」、「変化と関係」に関する領域はおおむねできている。

しかし、目的に応じて適切なグラフを選択して数量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみることに課題がみられた。

児童の質問紙から、例えば「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うか」に100%そう思うと肯定的に答えている。しかし、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できているか」では71%、「算数の授業で、どのように考えたかについて説明する活動をよく行っているか」では、そう思うと回答したのは57.1%と課題が見られた。

このことから、**様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて適切なグラフを選択して、データの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにする指導**を算数のみだけでなく、社会など他教科でも折をみて促していきたい。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて「ブロッコリーの出荷量を調べよう」では、

- ① 日常の事象について、疑問を基に興味・関心をもてるようにする。
- ② 複数の資料から、目的に応じて適切なグラフを選択して、データの特徴や傾向を捉え判断できるようにする。
- ③ 学んだことを基に、自分が興味をもったことについて調べさせ、他の都道府県や他の野菜について、発展的に考えようとする態度を養うようにしていく。

そして、「数や計算」などの基礎基本の習得だけに留まることなく、私たちの生活にどのように関係しているかが発見でき、子どもたちが「できた」から「わかった」の理解につなげてやる気の原動力となるような授業改善をしていきたい。



【理科】

- ◎ 学習指導要領の内容の「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域は、問題正答率が平均を上回っていた。特に、【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由を選ぶことや、「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇の理由を予想する正答率がかなり高かった。



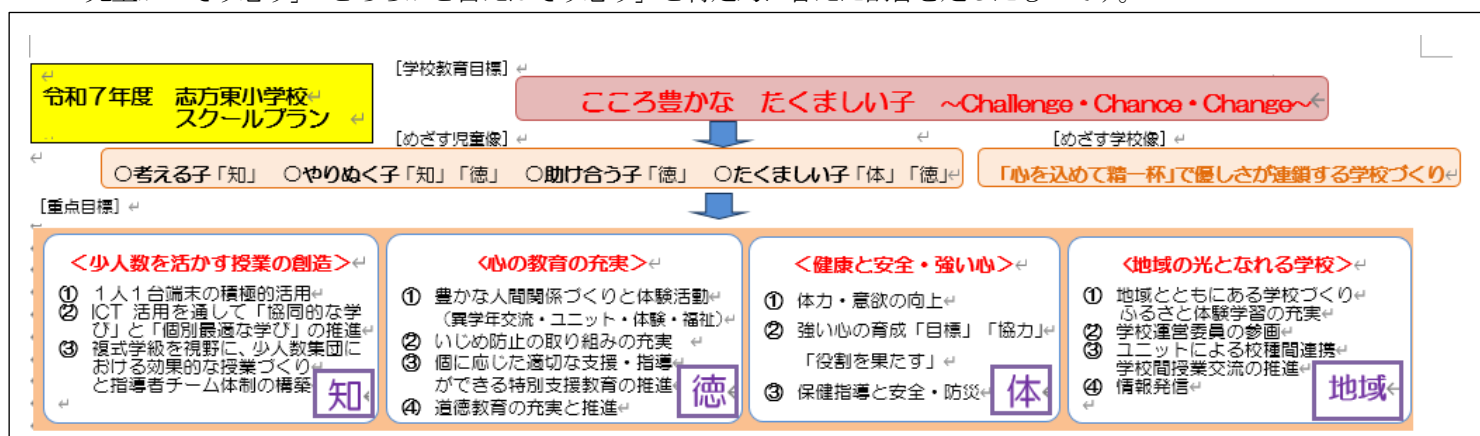
児童の質問紙から「理科の授業では、観察や実験をよく行っているか」に100%そう思うと回答している。このことから、普段から理科の学習で理科室の水が流れる装置を活用した実験をはじめ、様々な用具を使いながら【予想】【実験】【結果】【考察】【まとめ】と自分たちでなぜそうなるのか理由を考えながら、実験や観察などの体験を通して身につけていると分析する。

しかし、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があること理解することや、電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することに課題が見られた。

指導にあたっては、「磁石の性質」と「電気の通り道」では、鉄、アルミニウム、ガラス、木など、同じ対象物を用いて学習することが多いので、ICTを活用しながら、それぞれの内容で習得した知識を物ごとに整理し、まとめるなどして、物質の性質について理解を深めるようにしていきたい。また、学習で得た知識を活用し、考え・試し・見直すものづくりをしたり、考えたことを科学的な言葉を使用して表現する活動の充実を図ったりすることをしていきたい。

生活・学習状況調査に対するまとめ

学校教育目標に照らし合わせながら、生活・学習状況調査についてのまとめをお知らせします。割合の数値は、児童が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と肯定的に答えた割合を足したものです。



知

- ・PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ができると思う。・・・**100%**（兵庫県 80.%, 全国 82%）
- ・インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ができると思う。・・・**100%**（兵庫県 89.%, 全国 90%）
- ・ICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどをつかってまとめる）ができると思う。・・・**86%**（兵庫県 66%, 全国 69%）
- ・ICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う。・・・**100%**（兵庫県 78%, 全国 77%）
- ・分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる。・・・**100%**（兵庫県 79%, 全国 82%）

徳

- ・自分によいところがあると思う。・・・**100%**
- ・将来の夢や目標をもっている。・・・**100%**
- ・いじめは、どんな理由でもあってはいけないことだと思う。・・・**100%**
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。・・・**100%**
- ・人が困っているときは、進んで助けている。・・・**100%**
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。・・・**100%**
- ・友達関係に満足している。・・・**43%**
- ・学校に行くのは楽しい。・・・**71%**
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。・・・**71%**

体

- ・朝食を毎日食べている。・・・100%
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。・・・86%
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。・・・100%
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考え化を大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。・・・100%

地域

- ・これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある。・・・72%
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。・・・100%

【成果】

- ◎自己肯定感が高く、「人の役に立つ人間になりたい」気持ちや「将来の夢や希望をもって粘り強く取り組む」態度が育っている。また人が困っているときは、進んで助けているなど優しい面も見られる。
- ◎従来から、課題解決に向けて、自分で考え、取り組もうとする姿勢が授業の中で見られる。話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることや、互いの意見のよさを生かして解決方法を考えるなど、「協働的な学び」を積極的に取り組んでいることがうかがえる。
- ◎ICT 機器の活用は、Chromebook を文房具として定着し、学習活動の中で情報を集めて整理して、調べたことを工夫してまとめて発表するなどの先進校の実践ができている。

- ➡引き続き、道徳教育・人権教育を充実させたいじめを許さない醸成づくりと、ICT 機器を積極的に活用しながら、協働的な学びの中で様々な多様な価値にふれあい成長できる環境づくりを推進していきたい。
- ➡日頃から、地域や保護者に支えられ、様々な地域の体験学習を実施しているが、これからも地域・家庭との連携を図りながら、「ふるさとを愛する心」を育てていきたい。

【課題】

- ▲「学校へ行くのが楽しい」や「友達関係に満足している」の数値の低さは、少人数の固定化された集団の関係性などの課題がみられる。また、地域・社会貢献の思いは強いが、自然体験や地域との関わりの数値が低いのは、幼少期のコロナ禍によるコミュニケーション不足や、小集団の体験不足などが課題となっているかもしれない。しかし、「普段の生活の中で幸せと感じることが多い」などの満足度から、得手不得手はあっても、それぞれの個性を尊重し、今年度は特に高学年としての自覚や責任をもって取り組んでいる姿がよくみられる。
- ➡学校のために例えば、「精一杯活動」や「児童会での企画・運営」など様々な場面で前向きな行動を継続する。
- ➡近隣の小学校の交流、交流給食など異学年交流を積極的に取り入れ、コミュニケーション力の幅を広げるようにする。
- ▲「家庭の蔵書数」の調査では、本校は、「家におよそどれくらい本があるか」26～100冊が 57%となった。また、「新聞を読んでいるか」では、ほとんど読んでいないことがわかり、「インターネットを使って情報を収集する」が 100%となり、情報収集の方法が変わり、活字離れが課題となっている。
- ➡引き続き、加古川市や兵庫県が進める電子図書の紹介など、いつでもどこでも読める環境として Chromebook を活用させた読書の推進はもちろん、教師や子ども同士、図書ボランティアの方のおすすめの本の紹介をするなど、自ら読書がしたくなる環境を整えていきたい。
- ➡情報収集の媒体が本や新聞からインターネットや動画などに変わる中、情報モラルやリテラシーについて、インターネットトラブル防止講座などで情報をアップデートしながら、さらに情報活用能力を高められるようにしたい。

生成 AI など技術の進歩は目まぐるしい中、子どもたちの世界は、児童数減少により、コミュニケーション不足による関係性の難しさなど課題は山積しています。学校は本来、「なかまとともに学ぶ」「なかまとともに挑戦する」という学びのよさがあります。個々を尊重しながら、協働的な学びの実現に向けて、志方東小学校の強みである市内屈指の ICT 機器活用率による「世界につながる」可能性。保護者や地域の皆さまの支えのもと伝統や自然、環境体験などの「人と人がつながる」体験学習（リアル）と ICT 機器（デジタル）を積極的に活用しながら、「思考力・判断力・表現力」を育成していきたいと考えます。今年度から取り入れている全職員で関わるチーム体制、子どもが主役、みんなが当事者意識をもって取り組める「また明日行きたくなるような学校」として楽しく、安心な居場所づくりとなるように今後も全職員でサポートしていきます。